



いろは呑龍新聞

2018年(平成30年)10月号
第34号

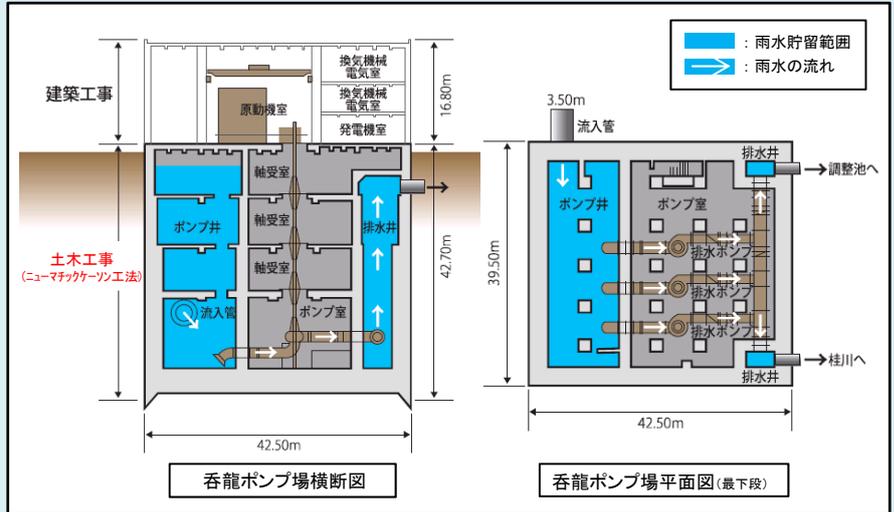
いろは呑龍トンネルに貯めた水を桂川へ放流するポンプ場を造っています。

呑龍ポンプ場の機能

呑龍ポンプ場は、いろは呑龍トンネルへ流れ込んだ雨水を排水する大型ポンプ(5m³/秒×3台)を設置するための施設です。

地下約30mに設置される3台の大型ポンプの内、2台により毎秒10トンの水を直接桂川へ排水し、1台により毎秒5トンの水を調整池へ貯留させることができます。

毎秒10トンの排水能力は、約30秒間で25mプール1杯分の水を空にすることができます。



底盤の構築

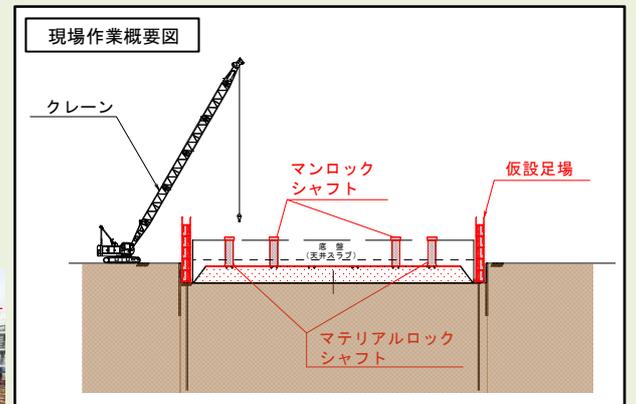
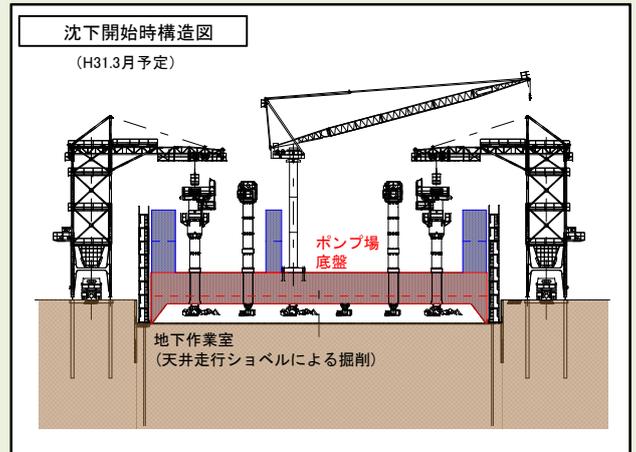
現在、現場ではポンプ場本体の床部分である底盤(地下作業室の天井スラブ)を造っています。

地下で掘削を行う作業室の天井鋼板の溶接が完了し、人が地下室へ入るためのマンロックシャフト、掘削した土を地上へ搬出するためのマテリアルロックシャフトの取付が完了しました。

底盤は約40m四角の巨大な構造物を地下に沈める上で必要な強度に造るため、密に鉄筋を組んでいきます。



ポンプ場予定地航空写真(H30.10)



仮設足場

天井鋼板溶接完了



地下作業室の天井がポンプ場の床になっているんだ。すごい鉄の量だね～